

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
156	2006/5/9	60156	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 <a href="http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies">http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies</a>	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 <a href="http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm">http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm</a>	クロアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm</a>	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。
157	2006/5/9	60157	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 <a href="http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies">http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies</a>	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 <a href="http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm">http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm</a>	クアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm</a>	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。
158	2006/5/9	60158	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの脾臓	アメリカ、ニュージーランド	製造工程	有	無	有	狂犬病	CDC 2005年12月23日 <a href="http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies">http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies</a>	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 <a href="http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm">http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm</a>	クアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm</a>	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
159	2006/5/9	60159	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
160	2006/5/9	60160	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
161	2006/5/9	60161	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリブリン	ブタの臓腑	アメリカ	製造工程	無	無	無			
162	2006/5/8	60162	メルスモン製薬株式会社	胎盤絨毛分解物の水溶性物質	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			
163	2006/5/10	60163	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE <a href="http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10">http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10</a>	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日にはMato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
164	2006/5/10	60164	大洋薬品工業株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE <a href="http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10">http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10</a>	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日にはMato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
165	2006/5/10	60165	東和薬品株式会社	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	CDC/MMWR 2005; 54(45):1153-1155	2003年11月から2004年5月に北アメリカの港発のクルーズ船で旅行したヒト(940万人以上)の中で、8人がレジオネラ症を発症し、うち2人が死亡したとCDCに報告された。患者8例の平均年齢は55.8歳(23-76歳)で、5つの異なるクルーズ船に乗船し、2例は同じ船旅であった。どの症例についても感染源を同定することはできなかった。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	2005年1月1日から12月1日に、米国42州の596郡からヒトにおける西ナイルウイルス感染2744例が報告された。うち1165例がWNV神経侵襲病(WNND)、1434例が西ナイル熱、145例が非特定であった。89例が死亡例であった。WNNDはサウスダコタなど中部で発生率が高い。トリでの死亡例は5204例、ウマでの感染例は1072例などが報告されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1256-1259	2005年10月2日から12月3日の米国におけるインフルエンザ活動性は低レベルであった。20336検体中173例(0.9%)が陽性であったが、H5N1型トリインフルエンザ症例は米国では確認されていない。
166	2006/5/11	60166	あすか製薬株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 <a href="http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page">http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page</a>	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
												鳥インフルエンザ	WHO 2005年11月17日 <a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/">http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/</a>	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
												鳥インフルエンザ	WHO 2006年1月5日 <a href="http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/">http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/</a>	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
167	2006/5/11	60167	あすか製薬株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 <a href="http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page">http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page</a>	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
												鳥インフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
168	2006/5/17	60168	サノフィ・アベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 16(6) 2006年2月9日 SCIEH Spotlight 2006年2月9日 HPS Weekly Report 40(6) 2006年2月14日 Public Agency of Canada 2006年2月10日 ProMED20060210-0040	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。患者は現在生存中である。
169	2006/5/18	60169	ワイス株式会社	ポリフィマーナトリウム	ポリフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
170	2006/5/19	60170	持田製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 <a href="http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html">http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html</a>	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 <a href="http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html</a>	中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌は <i>Mycobacterium mageritense</i> と同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ポツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ポツリヌス毒素とE型ポツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ポツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めての <i>C. butyricum</i> による乳児ポツリヌス症と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
171	2006/5/19	60171	三菱ウェルファーマ株式会社	肺サーファクタント製剤	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	ProMED20060428-0070	世界各国のBSE症例最新状況、2006年4月24日。世界各国で2001年～2005年に確定診断されたBSE症例数(OIE2006年4月24日更新統計)。2005年の1年間では大部分のBSE感染国で発生率は低下した。チェコ共和国、日本、ポーランドでは若干症例数が増加した。
172	2006/5/19	60172	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
173	2006/5/23	60173	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 23: 今回報告終了日—2005年10月30日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日):ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。—Nebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日):ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。—Utah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日):ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。—Wyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日～2005年10月16日):ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例。ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。



No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法によりアラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE:(米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時:2004年11月、および確定された日時:2005年6月)今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイク開始日2006年2月27日):ウシにおいて疑い例50例、症例1例、処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例である。
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスクとは?、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか?、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するものは?などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(GFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。この出来事は国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060417-0040	カナダ食品検査局(CFIA)によると、ブリティッシュコロンビア州で飼育されていたウシ1頭で、BSEが診断確定された。今回の症例確認はカナダ産牛肉の安全性に影響しない。
												BSE	ProMED20060430-0070	カナダでBSE感染ウシと一緒に飼育されていた15頭のウシが米国に輸出された。米国DOAはこのうち1頭の所在を確認した。他の14頭の所在は確認中である。
174	2006/5/23	60174	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
175	2006/5/23	60175	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは、50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて、市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は、10月15日に発症した際、バンラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり、全例が輸入患者である。
												デング熱	ProMED20060119-0100	中国(香港)の健康保護センターは、2006年、2例目のデング熱輸入患者を確認した。症例は22才の男性で、最近インドネシアに旅行している。
												デング熱	ProMED20060128-0020	中国(香港)の健康保護センター当局は、Siu Sai Wan在住の29才女性のデング熱感染を確認したが、今回の患者発生により、2006年の合計患者数は3名となった。全て輸入例である。患者は、2005年12月21日から2006年1月1日までインドネシアを旅行した後、1月3日に発症した。
												デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
												デング熱	ProMED20060416-0010	香港で、25才男性のデング熱輸入例が確認された。この患者はタイから帰国後2006年3月29日に発病し、6日後に入院した。この患者は回復しすでに退院した。この患者は2006年での8人目の輸入デング熱患者である。この患者の25才女性の同行者は、昨日デング熱が確認された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED20060422-0090	香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は、25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。この患者は、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛の症状で4月7日に来院した。この患者は1月28日から4月7日までインドネシアを旅行していた。
												ウイルス感染	ProMED20060402-0040	ホンコンで初のチクングンヤ患者の診断がなされた。モーリシャスの輸入例にほぼ間違いない。この患者は66才中国人男性で、親戚を訪問するため1週間モーリシャスに滞在し、帰国2日後の3月24日にプリンスオブウェールズ病院を受診した。患者は2日前から発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹で発病していた。この患者はモーリシャスの辺地の親戚を訪問し、蚊に刺された。鑑別診断はデング熱であったが、ProMED情報によりチクングンヤが疑われ、検査を実施した。第2病日の検体でPCR陽性であり、またPHLC(Public Health Laboratory Centre)でも確認された。デングウイルスはIgM陰性、IgG陰性であった。
												ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されたと4月12日国営メディアが報じた。北京タイムズによると、医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとする一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。「現在のところ、トリインフルエンザや新型肺炎の可能性は除外されたが、この疾患の感染性は強まっており、正確な原因と感染経路は特定されていない」と、匿名の医療関係者が述べたとのことである。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染症ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家畜農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑い症例2例がHunan省において調査されている。中国におけるヒト症例に対するサーベイランスは、家畜におけ家畜における高病原性H5N1トリインフルエンザの再発を受け、先月から強化された2005年10月19日以来、中国は6省におけるアウトブレイク11件を報告している。(ヒト)確定例がみられたHunan省およびAnhui省は、最近感染が起こった省に含まれている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月24日	トリインフルエンザ(update 42):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(3例目)を確認した。死亡した症例はAnhui省において農業従事者として労働していた35才の女性で、2005年11月11日に発症、11月15日に入院そして11月22日に死亡した。この症例は中国における3例目の検査確定症例(2例が死亡)で、Anhui省においては2例目である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月7日	トリインフルエンザ(update 46):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(4例目)を確認した。症例は、Guangxi省の10才の少女で、2005年11月23日に発熱および咳の症状を発症し、その後肺炎となり、依然として入院中である。地元の保健当局は暴露原因を確定するため、および患者の住んでいた村および近隣地域における追加症例の捜索の為に調査を開始した。現在のところ、インフルエンザ様疾患の追加症例は明らかとなっていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月9日	トリインフルエンザ(update 47):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(5例目)を確認した。症例は中国北東部のLiaoning省の31才の農婦で、2005年10月30日に発症し、その後重症肺炎と急性呼吸窮迫により病院の集中治療室に収容された。症例は回復し、11月29日に退院した。この症例の初期検査はH5ウイルスサブタイプに対する感染は陰性であったが、microneutralization法による抗体検査により、発症後期に確定診断された。2005年10月末より、Liaoning省では家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザのアウトブレイクが数回報告されている。調査の結果、この症例の感染は、発病した家禽との直接的暴露との関連が示された。農業当局は同省での家禽からH5N1ウイルスを検出している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月16日	トリインフルエンザ(update 49):中国衛生省はさらに1例のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は南東部のJiangxi省在住の35才男性である。男性は12月4日に熱の症状を呈し、その後肺炎になった。現在も入院中であり、集中ケアを受けている。農業当局は患者の住居の近くにあったアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認している。この症例は中国における第6番目の検査確定症例である。そのうち2例が死亡している。現在までに、中国は5つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi)から症例を報告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日	トリインフルエンザ(update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。農業当局は現在までに、患者の住居や仕事場の周辺の家畜においてH5ウイルスサブタイプが存在を確認できていない。調査員は発症する前の、患者と家畜の直接的な接触を確認できていない。この症例は中国における7例目の検査確定症例で、これらの症例のうち3例(本症例を含む)が死亡している。現在までに、中国は6つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian)から症例を報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況: 中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。新規確定症例の初期調査により、家庭で飼育していた家畜の死亡が暴露原因である可能性があると示唆されたが、この地域における家畜のアウトブレイクは公式には報告されていない。密接な接触者は医学的監視下におかれているが、現在のところ、症状を示しているヒトはいない。この症例はHunan省での2例目の症例である。先に報告された同省の症例は、2005年11月中旬に中国で最初に報告された2例のうちの1例であるが、今回の症例とは約300km離れたところに住んでいる。Hunan省に加え、H5N1感染症ヒト症例を報告している省・自治区はAnhui, Guangxi, Liaoning, JiangxiおよびFujianである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。症例は、密接した住居に8組の家族が居住している住宅に住んでいた。これらの家族メンバーおよび他の密接な接触者が医学的監視下に置かれている。インフルエンザ様疾病の症状は現在のところ報告されていない。この新規確定症例は中国におけるこの症例は中国における9例目の検査確定症例で、これらの症例のうち6例が死亡している。7つの省・自治区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, HunanおよびSichuan)において症例が発生している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月25日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2): 中国衛生省は、同国で10例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は、南中央部のSichuan省、Chengdu市の29才女性で、2006年1月12日に発熱し、肺炎症状で入院したが、急速に悪化し、23日に死亡した。感染源として病気のトリへ暴露した可能性に関する情報は現在のところないが、調査が実施中である。これは今年(2006年)に中国において報告された2例目の症例(いずれもSichuan省から)である。このSichuan省の2症例は、約150km離れた異なる県において発生していた。Sichuan省の他の地方では、家禽におけるH5N1アウトブレイクが、2005年12月下旬に開始していた。2症例が居住する地域におけるアウトブレイクは確認されていない。中国において確認された10例のうち、7例が死亡している。7つの省および地区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, Hunan, およびSichuan)において症例が発生している。うち2省では家禽におけるアウトブレイクは公式に報告されていない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3): 中国衛生省は同国で11例目となる検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例1例を報告している。症例は中国南東部のFujian省出身の26才農婦で、2006年1月10日に発症し、その後肺炎で入院し、現在も安定した状態で治療中である。中国におけるほかの多くの症例と同様に、この症例は家禽における最近のアウトブレイクが公式に報告されていない地域において発生した。中国における検査確定症例11例のうち、7例が死亡している。症例は7つの省および地域で発生している(Anhui, Fujian, Guangxi, Jiangxi, Hunan, LiaoningおよびSichuan)。散発的なヒト症例が継続しておこっていることは、少なくとも中国の特定の場所でウイルスがトリの間で循環していることを示している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月13日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4): 中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告している。症例は中国南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。家庭で飼育している家禽の処分後に発症した。症例は2月4日に死亡した。これまでに中国は12例の検査確定症例を報告しており、そのうち8例が死亡した。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例2例(13例目、14例目)を報告した。両症例とも重体である。1例目は中国東部のZhejiang省の9才の女児で、2006年2月10日に発症した。隣接するAnhui省の親戚を訪問した後に発症した。2004年以来、Zhejiang省において動物のアウトブレイクは報告されていない。2例目はAnhui省の26才の農婦で、病気の家禽と接触した後に、2006年2月11日に発症した。地域の農業当局が女性の近所で死亡した家禽からの検体においてH5N1ウイルスが単離されたことを報告している。これまでに、中国は検査確定症例14例を報告しており、そのうち8例が死亡している。H5N1ウイルスは今や中国の多くの地域の鳥類に蔓延していると考えられる。WHOは中国当局と協力し、トリインフルエンザに対する一般市民の意識を向上させ、人々にアウトブレイクの報告を促し、死亡した、あるいは病気の鳥類との接触を避けるように人々に警告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update7):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における10例目の死亡症例を報告した。症例は中国東部のZhejiang省の9才の女児で、2006年2月10日に発症し3月6日に死亡した。この症例は2006年2月27日に中国当局によりすでに告知されており、その際には症例は重症であるとされていた(13例目)。現在のところ中国は検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症症例15例を報告しており、そのうち10例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月6日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例1例を報告した。症例は中国南部のGuangdong省の32才の男性で、2006年2月22日に発熱を発症し、肺炎となった。症状は急速に悪化し、3月2日に死亡した。男性は無職であった。2004年以来、Guangdong省において家禽におけるアウトブレイクは報告されていない。これまでに、中国は検査確定症例15例を報告しており、そのうち9例が死亡している。2例が依然として重症にある。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月24日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における16例目の症例を報告した。症例は死亡症例で、29才の出稼ぎ労働者女性で、2006年3月15日に上海の病院に肺炎の症状により入院し、21日に死亡した。この症例は上海において報告された初めての症例である。この症例の感染源は調査中で、上海地区では2004年2月以来家禽のアウトブレイクは報告されていない。中国当局によると、女性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例16例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update9):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における17例目の症例を報告した。症例は、Hubei省Wuhan市の21才の出稼ぎ労働者男性で、2006年4月1日に発症し、重症で現在入院中である。男性の暴露源は調査中である。2005年11月以来、Hubei省において家禽のアウトブレイクは報告されていない。男性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例17例を報告しており、そのうち11例が死亡している。



No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2006年4月21日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update10):中国衛生省は同国における12例目の死亡症例を通知した。死亡症例は以前に報告された症例で、Hubei省の21才男性である。症例は2006年4月19日に重症呼吸器疾患で死亡した。中国における検査確定症例17例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11):中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuans省の8才の女児で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家畜の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
176	2006/5/23	60176	セロー・ジャパン株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	ProMED20060225-0030	韓国保健省当局は、2003年末から2004年前半に、数人のヒトでのトリインフルエンザ感染があったことを確認した、と2006年2月24日に公表した。2003年12月から2004年3月までに、韓国の養鶏場400か所近くでトリインフルエンザ感染が発生したが、これまでヒトでの感染の報告はなかった。血液検査により、数人の韓国人にトリインフルエンザに対する抗体が産生されていたことが示された。彼らは養鶏業者だが、韓国で家禽類でのトリインフルエンザ流行の際に、有意な症状を示さなかった。
177	2006/5/23	60177	株式会社ベネシス	乾燥人フィブリノゲン フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	①凝固性たん白質②精製フィブリノゲン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。